


内 容	演 題	講 師
地域の取組紹介 【徳島県】	『『地域の魅力を伝える！』地域コンテンツクリエイター育成について』	株式会社あわえ 代表取締役 吉田 基晴 氏
	<p>現在、二つの会社を経営しているが、一つはICT関連企業でデジタルコンテンツの不正コピー対策や電子データの情報漏えい対策などを行っている。もう一つは2年前、徳島県美波町に設立し、地域産業や地域コミュニティの保護・振興に係る事業などを行っている。</p> <p>美波町での取組は、企業経営上の悩みから始まった。2003年に東京に会社を設立したが、東京では社員が採用できないことが理解できていなかった。結果的に数多の企業に埋没して成果が出ない状況が続き、「地方を志向する若者」に魅力的な企業になろうと思いつくまでに何百万円、何十年の苦悩があった。</p>	
<p>高速インターネットが整備された徳島県的美波町にラボを設立し、せっかく過疎地にオフィスを構えるので、「半X（好き） 半IT（仕事）」を両立した働き方を提唱し、実践している。私は釣りが好きなので「半漁 半IT」で、時間があれば釣りに出ている。そんな働き方が話題になって、アウトドアの雑誌や田舎暮らしの雑誌、NHKやTBSの番組に出ささせていただき、これまでの課題だった社員の応募者が急増し、過疎地にオフィスを作ってから、社員数が3倍になった。</p>		
<p>環境が良く、優秀な人材が集まってくるので、もっとこの価値を広げたい！と、2013年に地域課題の解決をビジネスにする会社として、株式会社あわえを設立した。地域の皆さんと農業に挑戦、祭事への参加、中学校でのIT授業などを行っている。地域の方と触れ合う中で、ICTの力は地方でこそ有効ではないかと気づいた。</p>		
<p>地域のボランティアガイドさんの悩みを伺ったところ、観光客に美波町の四季折々の良さを伝えたいが方法が思いつかない、ということであった。そこで、タブレット端末を活用すれば、動画や写真を満載することで、一年に1回のお祭りやウミガメの産卵がいつでも見てもらえると提案したところ、今は英語案内バージョンや手話での案内バージョンまで登場している。インテル、I I Jもスポンサーとなり、「ICTを使いこなす観光ガイド」としてテレビやメディアの取材も相次ぎ、今やガイドさんそのものがひとつの観光名所になっている。</p>		
<p>「地方は素敵なものに溢れている」、「伝わり方が不十分なだけ」であることを再認識している。地方に必要なのは、地域の魅力を見つけ、流通に適したデータにし、発信できる人材であり、適した人材がいないのであれば育てよう、ということで、地域コンテンツクリエイターを1年間かけて育成する事業を展開している。写真、ライター、PR担当などその道のプロに講師になっていただいている。美波町への移住を必須条件に数名を募集したところ、全国から180名を超える応募があり、その中から4名のスクール生を採用した。育成事業開始から半年であるが、町のプロモーション映画撮影や地域製品のプランディング支援、地場企業のイベント撮影など次々と仕事が舞い込んでおり、ニーズが高いことを実感している。地方創生は必ずしも新しいものを創る話ではなく、今ある日々の魅力を見つけること、そしてそれを発信する人材の育成であると考えている。今後のクリエイターズスクールに期待していただきたい。</p>		
<p><質疑・応答></p> <p>愛媛大学・坂本先生：四国に帰ってこられる転換点があったと思うが、四国が変わっていくためには、どのような発想の転換が必要であるかポイントを教えていただければと思う。</p> <p>吉田氏：自分の経験では、自分の会社でどれだけのボリュームが適正であるかに気づくということだった。大きな枀である東京ではなく、美波町で十分であることに気づいた。県や町、地区などそれぞれの単位で必要なボリュームは異なってくるので、適正なサイズがどのくらいかを把握することからはじまるのではないかと思っている。</p> <p>坂本先生：やるべきことの適正サイズをしっかりと見極めることが大切であるとのこと、大変参考になった。</p>		